

南本町国民学校時代の思い出

昭和十六年（二年生）～昭和十九年（五年生）

新井保宣（西城町四丁目出身）

町田市

お糸迎様の誕生日は四月八日から一週間が「お花見」でした。このお花見の期間、人々はお糸迎様に甘茶をかけてお参りしていました。外濠や内濠の周りの桜が開花し、柴田サーカス小屋や濠端の出店が人々を集めていました。あちらこちらで酒盛りが始まり、酔っ払い同士が喧嘩をしたり、濠に落ちたりしている様を恐き半分興味半分でついてまわりました。

桜の木にぼんぼりが取り付けられていて美しい夜桜に、高田連隊（？）が探照灯を左右に動かして桜の花を照らしていました。探照灯の光が花弁に当たるとキラキラと白銀色に輝き、それはそれは神秘的な美しさでした。

名古屋から高田へ転居して初めて見た美しいお花見の思い

です。

名古屋の笠寺尋常小学校から南本町国民学校二年二組へ転校したとき、幸運にも担任の竹内トキ先生のクラスが張子の大きな白い象の背に乗せたお糸迎様をお糸迎様の歌を歌いながら、本町一丁目の長徳寺から高田城址の築山へ運ぶことになりました。

一、むかしむかし三〇〇〇年

花咲きによく春八日

響き渡った歌声は

天にも地にも我一人

二、立派な国に生まれて

富も位もありながら

一人お城を抜けいでて

山にこもりし十二年

何年たつても変らずに
咲いたままなる法（のり）の花



今はなき南本町国民学校校舎と二宮金次郎の銅像



戰時下的映画と歌

南本町国民学校が時々映画を見せてくれました。映画のある日が待ち遠しくて

誰かに教わったということでもなく自然と多くの軍歌を覚え歌っていました。今でも記憶している軍歌は、「荒鶯の歌」、「空の神兵」、「加藤隼戦闘隊」、「燃ゆる大空」、「同期の桜」、「若鷲の歌」、「月月火水木金金」、「海行かば」、「山崎大佐」など。校長先生の「君たちは陸軍幼年学校が海軍兵学校を目指せ!」という訓話を燃えて、僕は将来、予科練（海軍飛行予科練習生）に志願するんだと、軍歌を歌い心を鼓舞していました。



新井保宣さん

南葉山への思い

帰省する汽車の車窓から見る朝の南葉山を眺めていると、「志をはたしていつの日にか帰らん」と『故郷』(*注)の歌を自然に口ずさみ、目頭が熱くなつてきます。

帰京する車窓から見る夕方の南葉山を眺めると寂しい気持ちになります。

「あしたの窓に仰ぎ見る 妙高火打南

葉山 山ぞれぞれに異なれど 同じく空にそびえ立つ」という南本町国民学校の校歌を歌い、校庭から四季を通して、広々とした練兵場と山々、そしてその山々を抱きかかえるような南葉山の落ち着いた佇まいを眺めるのが好きでした。

へ転校し、それ以来戸田先生に「あの時はすみませんでした」と謝っていないのが気になっています。

大町新制中学二年の国語の時間に、栗原先生が教えてくださった和歌は、私の自然、特に大好きな南葉山を眺める姿勢を教えてくれました。

目になれし 山にはあれど

秋くれば 神や住まぬと畏みて見る

月々に 月見る月は 変われども
月見る月は この月の月



北城高校同級生 宮崎道男さんの作品

五年生の夏休みあけに東本町国民学校

放課後「写生に行こう」と私を誘つてくださいました。戸田先生と私の二人で練兵場へ行きました。先生は南葉山を写生していました。私が描いていたのは、アメリカの爆撃機の上に日本の戦闘機が乗りました。戸田先生は私の絵を見て「もう帰ろう」と一言。一緒に南葉山を写生しよう声をかけてくださった戸田先生の期待に背いて、申し訳ないという気持ちが忘れられません。

(*注) 『故郷』

『故郷』 グレッグ・アーウィン氏の英訳

I've got a dream and it keeps me away
(志をはたして)
When it comes true, I'll go back home someday
(いつの日にか
帰らん)
Crystal waters, mighty mountains, shining like an
emerald stone (山は青き故郷)
I hear it calling me, my country home
(水は清き故郷)



当時の新井さん家族 上段左が新井さん